日本と世界における保育英語の教授法や授業実践の提示方法
― 無料WebツールのJimdoとYouTubeを用いて ―

How to Demonstrate English Teaching Methods and Lessons for Early Childhood Care and Education in Japan and the World:
Utilizing the Free Web Tools Jimdo and YouTube

片 岡 晴 美
Harumi KATAOKA

【要旨】

本研究では、2018年度前期の「英語コミュニケーションⅠ」の授業において、学生達が2018年11月に２週間の保育実習に行くことや、卒業後に保育現場で生かせる英語コミュニケーション能力育成のために、無料のWebツールであるJimdoとYouTubeを用いて、YouTubeに掲載されている日本や海外で行われている保育英語の教授法や授業実践を提示するWeb教材を作成し、授業中や授業外に学生達が学習できる状況を構築した。本稿では、どのようにWeb教材としてJimdoとYouTubeを活用したのか、その手順を具体的に示す。そして対象学習者である本校の1年生達のWeb教材に関する意識調査結果を報告する。本研究が、Web教材の作成や活用に興味を持っている教育現場の教員や将来的に保育現場で活動する学生達の一助になれば、幸いである。

キーワード： Information and Communication Technology（ICT）、Educational Technology（教育工学）、Applied Linguistics（応用言語学）、保育英語、Jimdo & YouTube

１．はじめに

2018年度前期の「英語コミュニケーションⅠ」と後期の「英語コミュニケーションⅡ」の授業シラバスを作成する過程において、語学教育や教育関係の仕事に携わっている人達[1]を中心に、簡単な半構造化インタビューを行った。その結果、①「１年生の後期である11月に、２週間の保育実習に行くことや、本校での英語の学習期間が１年間であることを踏まえ、保育現場で活用できる英語の能力育成のため、実践形式の内容を授業に入れた方が良い」、②「卒業後も学んだ内容を見直せるように、教科書は保育英語の内容で、英語の歌なども収録されている英語の音声CDが付属しているものを使用する」の２点が分かった。

また関西圏の大学で中国語を教えており、ご自身の子ども達を日本の保育園、幼稚園、公立小学校に通わしている中国人のA先生[2]から、2016年度に子どものうちの１人が、大阪府南部地域の保育園に通園していた時に、20代後半の保育士が退職した経緯を聞いた。それによると、通園していた保育園では、週に１回、語学学校から英語の先生が来て、希望する人は有料で受講できる英語教

室が開催されており、保育士は「補助」という形でその英語教室に参加しなければならなかった。ある日、３歳児クラスの英語教室で、英語の先生が英語で喋った内容を保育士が分かっていないと気付いた３歳の男の子が、「あ！先生！英語、分かって無い！今、英語の先生が、何て言ったか分かる？僕は分かったで！日本語では、○○って、意味のこと、言っててんで。それなのに、先生は、僕が分かった英語、分からなかったんやろ！」などと、大声で騒ぎ出したそうだ。それをきっかけに保護者の間で、３歳の男の子が分かった簡単な英語すら分からないなんて、先生として信用できない、そんな人に自分の大事な子どもを預けられない、信頼できない、などと問題になり、だんだん不信感が高まり、大ごとになった。その保育園に勤務する他の先生方も、非常に驚くと同時に、すごく困っていた。結局、その英語が分からなかった先生は、居づらくなったのか、別の理由を付けて、その出来事から２～３カ月後に退職したが、保護者の間では、「あの先生は、英語が分からなくて、保育士として使いものにならないから、自分から辞めはったんとちゃう？」と、噂話になったそうである。A先生は、「そんなことで、たぶん自分が小さい時から目指してきた保育士の仕事を辞めないといけなくなったのは、かわいそうで気の毒。でも、そんな事態に陥ったのは、自分のせいではないか？３歳の子が分かる英語、何故分からない？正直、そんな先生に、自分の大切な子どもを100％信頼して預けることができるか？と聞かれたら、私は預けられない。やっぱり、嫌だわ。ママ友とも、そう話していた。」と言われていた。またこの事例を踏まえ、保護者の立場からA先生は、「専門的で本格的な英語教育は、専門の英語の先生の方が信頼できるし、そっちから教えてもらいたい。でも国際化が進んできた今の時代、保育士の先生にも、簡単な英語の受け答えぐらいはできて欲しいし、最低でも、英語の先生が何を言っているのかぐらいは、分かって欲しい。」「そんな難しい内容は、保育士さんには求めてない。簡単なアルファベットの読み方や英語の歌ぐらいは、教えられるようになって、毎日、ちょっとずつでいいので、教えてもらいたい。保護者側としては、その内容で、十分満足。だから、それぐらいの内容を、学生達が教えられるように、英語の授業のカリキュラムを組んで、やってあげたら？」との、ご意見をいただいた。

この事例を知り、今どき、３歳児が分かる内容の英語を理解できない20代後半の保育士がいたことに、筆者は心底驚いた。次に、その保育士にかつて英語を教えていた各校種の英語の先生方は、どういう英語の授業をしていたのだ、厳しく指導することは時には困難も伴うが、学生の将来を考慮したら、少しでも英語の能力を伸ばして、卒業させてあげないといけないのに、適当に単位を渡したために、３歳児が分かる内容の英語すら分からない保育士となり、結局、退職に追い込まれてしまったのではないか、と、考えさせられた。そこで授業では、学生達が将来、保育英語を教えられるように、実践形式の内容を取り入れることに決めた。また英語関係の学会に参加[3]して、英語の教科書を発行している出版社の担当者の方々にお会いした時に前述の事例を伝え、保育士や幼稚園教諭を育成する学校で使われている教科書見本など[4]を郵送していただいた。

十数冊の教科書の中で、保育英語や英語の歌や手遊びなどの内容を掲載しているのは、成美堂の「保育英語（Children's Garden: English for Early Childhood Care and Education Majors: ISBN978-4-7919-1095-3）」だけであった。ただし、この教科書には英語の音声CDは付属しているが、英語の音声のみが収録されており、例えば、“Twinkle, Twinkle, Little Star”（＝キラキラ星）が、どのような振り付けで、英語で歌われているのか等の詳しい映像は収録されていなかった。

筆者自身の経験だが、大学で英語の教科教授法の授業を受講した時に、公立中学校の英語の授業[5]を収録したビデオを視聴する機会があった。教科書には掲載されていない、先生の細かい動きや表情、歩き方、黒板に書いた文字やカードの提示方法、声の大きさ、話し方や使用する言葉、生徒達の受け答えや表情、発言などが具体的に示され、授業の雰囲気なども非常に分かりやすく、とても勉強になった。大学４年生の時に行った教育実習で自ら授業を行った際には、教科教授法の授業で先生から教えて頂いた文字や絵のカードの作り方や提示方法、またビデオで視聴した授業風景が、かなり役に立った。大学卒業後に数年間の会社員生活を経て教職に就き、自ら授業運営するのに参考になったのが、教科教授法の授業で先生から教わった内容とビデオで視聴した授業風景であった。

ただし、ビデオで視聴した授業風景については、そのビデオ自体が市販されておらず、再び視聴する機会も無く、自分の記憶を頼りにするしかなかった。これらの体験から、授業風景などは、必要な時に繰り返して、教室以外の場所からでも、視聴できる方法を併用するのが良いと考えた。

そこで、インターネットに掲載されている日本や海外で行われている子どもに英語を教えている授業風景や、指遊び、歌、絵本の読み聞かせなどの英語を使った学習活動の動画を、「英語コミュニケーション」の授業で使用することに決めた。

２．先行研究

２．１　日本の教育現場におけるICT使用

教育の分野で情報技術を使用する試みは、1960年代から国内外の学校において、視聴覚機器の使用という形式で開始された（岡本, 2001, p. 59）。柳田（2001）によると、1994年12月に「行政情報化推進基本計画」が閣議決定され、行政文書が紙媒体から電子媒体で発行されるよう移行が始まった。そして、行政サービスがインターネットで行われる方向に動き出した結果、コンピュータの導入や各職業分野でIT能力を有する人材の育成が急務となった。

なお、IT（Information Technology: 情報技術）と、ICT（Information and Communication Technology: 情報通信技術）という言葉は、ほぼ同義語として扱われている。厳密には、ITという用語は、コンピュータやデータ通信に関する情報技術やパソコンやインターネットの操作方法、ハードウエアやソフトウエアの応用技術分野を意味する言葉として、日本国政府から2000年12月14日に公布された「高度情報通信ネットワーク社会基本法（＝通称、IT基本法）」や、2001年１月22日に「e-Japan戦略」が公表された頃から一般的に使われ始めた。ICTは、コンピュータ技術の活用を指す言葉として、2005年に総務省が「ICT政策大綱」を公開した頃から使われ始めた。

教育分野において、文部科学省（2002, 2010）は、2000年以降の社会情勢の変化を受け、国の成長戦略の一つとして、国民のICT能力を高めることを掲げており、学校教育で各教科の授業にICTを活用することを奨励している。まず2002年に、情報教育の実践と学校の情報化に関して、新「情報化教育に関する手引き」を公開した。内容は、小学校から高等学校までの各校種において、「情報」の授業だけでなく、各教科等の授業で、視聴覚教材やコンピュータなどの情報機器を活用した授業内容を例示し（文部科学省, 2002, pp. 24–62）、情報機器を活用した授業実践を推奨した。

その後、パーソナル・コンピュータ（パソコン）、スマートフォン（スマホ）、電子黒板、iPadなどのタブレット端末を活用する授業実践が、各校種、各教科で展開され、多様なWebツールが使わ

れている。Webツールには、（1）情報関係の民間企業が販売している有料のものと、（2）開発者がインターネット上で公開し、一般のユーザーに無料で提供しているものの２種類がある。学校関係で使われている無料のWebツールには、代表的なものとしてMoodle、YouTube、TedTalk、Jimdoなどが挙げられる。戎（2017）は、Jimdoでホームページを作成して、海外から日本の大学に来ている交換留学生達が、それぞれの出身大学を紹介する授業実践を報告している。また公立中学校のPTA[6]が、PTA通信を紙媒体で発行する代わりに、Jimdoで無料のホームページを作り、様々な連絡文書をPDF（Portable Document Format）形式のデジタル媒体で発信している事例もある。2018年現在、教員の各種の研修[7]や、大学によっては、学生の出欠や成績入力は、各教員の自宅のパソコンからもオンラインで行えるシステムが導入されている。

英語教育においては、2020年度から小学校の教育は新しい学習指導要領に沿って行われるため、小学校３年生から「外国語活動（英語）」が必修化される（文部科学省, 2017）。2018年４月からはその移行期間となり、小学校教育現場では試行錯誤が行われている。文部科学省は、2019年度から、AI（Artificial Intelligence: 人工知能）を搭載した英語を話すロボットなどを活用した授業を、全国の約500校の小学校を対象に、試験的に実施すると発表した（日本放送協会, 2018）。2020年度から実施する学習指導要領では、子ども達が苦手とする話す力と書く力の育成に力を入れることになっているが、小学校の教員の英語力に課題があり、また外国人講師（Assistant Language Teacher: ALT）の確保も財政上難しい実情を踏まえ、AIを搭載したロボットなどの導入を決めた。既に2018年度から一部の小学校で、子ども達が楽しみながら正しい発音や会話を学べるとして、AIロボットによる英語の授業が行われている。また､英語を学ぶアプリを入れたタブレット端末や、子ども達がインターネットを使ってALTと英会話する授業計画が進んでいる。

ICT能力の育成や活用という観点からも、AIロボット、タブレット端末、インターネット経由によるALTとの対面形式の英会話の導入などの新しいスタイルの小学校英語の授業は、英語実践能力の育成面からも大いに期待される。しかしながら、関西圏の公立小学校に在籍する小学校５年生と６年生全358名を対象とした研究（片岡, 2012, p. 100, 表７）によると、小学生の「先生が黒板にかいて、それを見て書きたい」という自由記述調査結果が示すように、小学生達自身は、やはり担任の先生から直接英語を学びたいと希望していることが伺われる。2020年度の全面実施から数年を経て、日本の小学校英語教育に適した英語教授法が生まれることが望まれる。

小学校で英語教育が活発になることに伴い、今後、保育園や幼稚園などの保育教育機関にも、英語教育が徐々に入ってくると考えられる。だが2018年８月現在、（1）各都道府県の保育園や幼稚園などにおいて、具体的にどのような英語教育活動が行われているのか、（2）保育士や幼稚園教諭を養成する教育機関において、どのような内容の英語教育を行っているのか、（3）保育を受ける側である子ども達は、英語についてどう感じているのか、という全国的な調査や実証的なデータが提示されている研究論文は、筆者が知る限り英語関係の学会誌には無く、見つけることができなかった。

２．２　海外や日本の教育現場におけるオンライン教育

情報通信産業が発達しているアメリカでは、2000年前後から民間企業の研修は、出張費などの経

費削減を目的として、インターネットを通じてWeb上で講義を受けられるオンライン教育の方式が導入されてきた。この様な流れを受け、日本の学校教育の現場でも2005年前後から、Moodleなどを使用した教育活動が授業内外で行われるようになった。また2005年にYouTubeが出現し、情報発信の道具（tool）として使われ始めた。YouTubeは無料で、一般のユーザーが手軽に載せたい内容の動画を発信できることから、汎用性が高いと言える。そして2007年10月からアメリカのカリフォルニア州立大学バークレー校が、YouTubeに専用チャンネルを作り、無料で講義内容を公開し（金山, 2008）、オンライン教育を開始した。このYouTubeを使った講義の無料公開は、2018年８月20日の時点では削除されており、代わりに無料の大規模公開オンライン講義（Massive Open Online Courses: MOOCs）[8]を通じて講義内容を公開している。日本からは、東京大学（https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/society/visit-lectures/mooc.html）をはじめ、複数の大学が参加している。

同じような無料オンライン講座にgakko（ガッコ）があり（http://gacco.org/）、MOOCsと同様に誰でも無償で利用でき、希望する修了者は有料で「修了証」を取得できる（朝日新聞, 2018）が、この修了証は卒業証書では無い為、現時点では「学歴」として使うことはできない。だがインターネットに接続すれば、いつでもどこでも無料で講座を受講でき、知識を増やせるのは、意義がある。

３．手順

３．１　研究の目的

2018年度の前期に「英語コニュニケーションⅠ」を履修する１年生達が、2018年11月に２週間の保育実習に行くことや、卒業後に保育現場で生かせる英語コミュニケーション能力育成のために、無料のWebツールであり、パソコン、スマートフォン、タブレット端末でも視聴ができるようJimdoとYouTubeを用いて、日本や海外で行われている保育英語の教授法や授業実践を提示するWeb教材を作成する。そして、対象学習者である本校の1年生達のWeb教材に関する意識調査を実施する。

３．２　研究参加者

2018年度の前期に「英語コニュニケーションⅠ」を履修した１年生58名（男性１名、女性57名）である。

３．３ 研究参加者のスマートフォン所持率

授業内外でWeb教材を視聴するのに、スマートフォンが手軽だと考えた。そこで第一回目の授業があった2018年４月13日（金）１限目の授業時に、スマートフォンの所持率に関する調査を行った。そして、欠席や無回答などの欠損値を除去した53名の結果を、図１に記す。

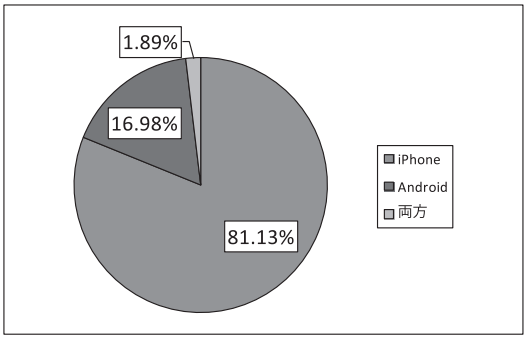


図１．スマートフォンの所持率

スマートフォンの所持率は100％で、回答者の53名全員が所持していた。所持しているスマートフォンの種類に関しては、iPhoneが81.13％（43名）、Androidが16.98％（９名）、両方所持していたのは１.89％（１名）であった。そこで、Web教材の授業内外での使用に支障は無いと判断し、併用しながら授業を行うことにした。

３．４　Web教材の作成手順

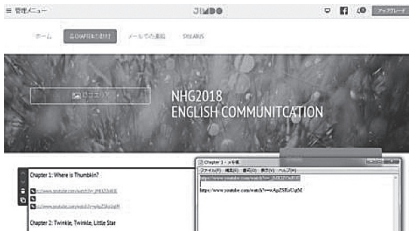
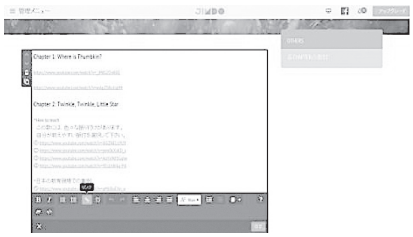
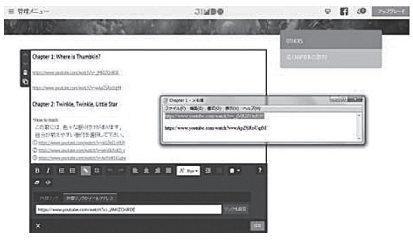
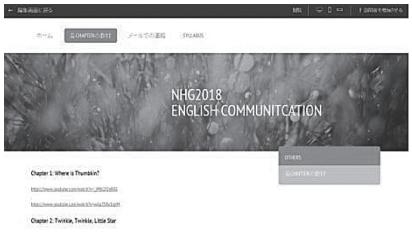
YouTubeに掲載された動画を視聴するなら、授業の都度、対象となる動画のページにアクセスすれば良い。しかし、視聴する動画の数が多くなると予想されたため、戎（2017）を参考にJimdoでホームページを作成し、そこにYouTubeの各ページのURLのリンクを貼った。スマートフォンで視聴する場合は、画面に表示されたURLを一本指でタップすれば、簡単に視聴できる。

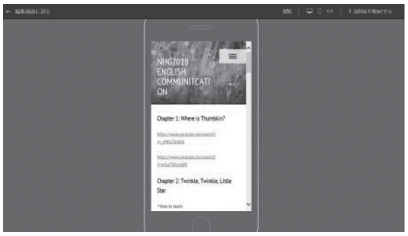
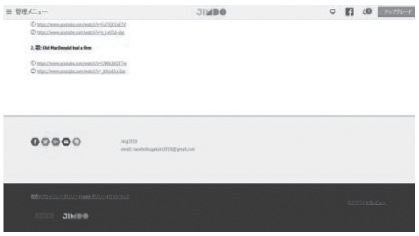
戎先生[9]からは、Jimdoでのホームページ作成の事前準備として、①学生からの連絡用のGmailのメールアドレスを取得しておく、②Jimdoのホームページのアドレス（＝URL）は、学生が入力しやすいようになるべく短いものにする、③年度ごとにホームページを作るなら、①と②に「2018」と年度を示す数字を入れ、いつ作成したのか分かるようにする、の３点についてアドバイスをいただいた。

そこで、①は「narahoikugakuin2018@gmail.com」、②は本校の名称から「https://nhg2018.jimdo.com/」を取得した。次に本稿では、2018年前期に「英語コミュニケーションⅠ」の授業を履修した学生達の要望も考慮し、パソコンを使ったJimdoでのホームページ作成手順を、表１に示す。

表１．Jimdoでの授業用ホームページ作成手順

手順	パソコンの画面	作　業　内　容
1		学生からの連絡用に、Gmailのアドレスを取得する。
2		Googleで「Jimdo」と入力して検索し、Jimdoの接続ページに行く。前述の手順１で取得したGmailのアドレスとパスワードでログインする。
3		新規作成をクリックすると、「どんなホームページを作成しますか？」と表示が出るので、画面左端の「ホームページ」をクリックする。
4		ホームページのレイアウトを選択できる画面が表示される。自分で良いと思うレイアウトをクリックする。
5		トップページが表示されるので、ホームページの名称として「NHG2018 ENGLISH COMMUNICATION」と入力した。何故か、大文字表記しかできなかった。 ページの上部と右横のボックスに、各ページのタイトル、下部にはメールアドレスなど、必要な情報を入力する。

6		ホームページに掲載したいYouTubeのページに行く。作業しやすいよう「メモ帳」に、リンクを貼りたいYouTube のページのURLを、コピー・アンド・ペースト機能を使って貼り、保存する。
7		Jimdoに戻り、上部の「各Chapterの教材」をクリックし、そのページへ移動する。 ページの編集画面に必要事項を入力し、手順６の「メモ帳」のURLを、コピー・アンド・ペースト機能を使って貼る。
8		ページの編集画面の下部に、「リンク」のマークがあるので、クリックする。
9		手順６のメモ帳を出し、ページ編集画面にURLを貼って、保存する。
10		画面右下の「プレビュー」をクリックし、インターネット上で表示されるかを、確認する。

11		ページ内のURLをクリックすると、手順６のYouTubeのページが表示できたので、パソコンで視聴できると確認できた。
12		画面右上のスマホのアイコンをクリックすると、スマホでの表示画面が出てくる。ページ内のURLをクリックすると、手順６のYouTubeのページが表示できたので、スマホでも視聴できると確認できた。
13		画面右下の「ログアウト」をクリックし、終了する。

３．５　授業時のWeb教材提示方法

授業は、201教室で行った。Web教材の提示は、筆者の私物のiPhoneを使い、Jimdoで作った授業用のホームページにアクセスし、教室に設置しているHDMI端子が付いているテレビ[10]に接続して画面表示した。接続方法は、①iPhoneに、iPhone用のLightning Digital AV アダプタをつなぐ、②①と３mのHDMIケーブル[11]をつなぐ、③②のHDMIケーブルをテレビのHDMI端子に接続する（図２）である。これでiPhoneの画面が、テレビ画面に表示される。

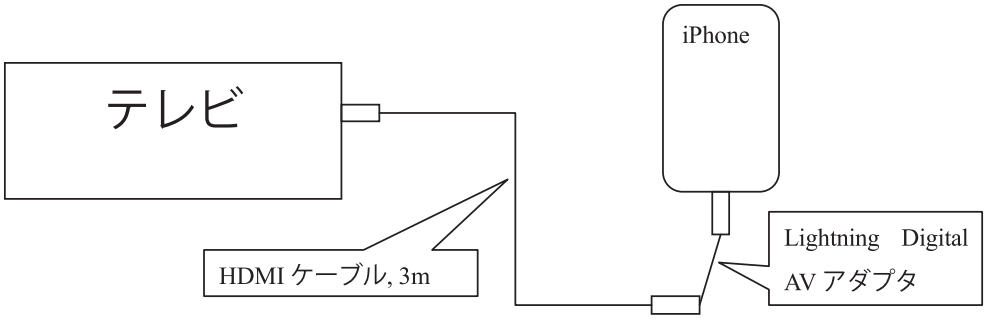


図２．　201教室でのテレビとiPhoneの接続方法

なお、タブレット端末を使用する場合も、前述のiPhoneと同じ接続方法になる。ノートパソコンを使用して提示する場合は、（1）インターネットに接続するか、（2）使用するノートパソコンにHDMI端子が搭載されているか、の２点を事前に確認する必要がある。そして、ノートパソコンとテレビを直接HDMIケーブルでつなぐと、ノートパソコンの画面が、テレビの画面に表示される。

３．６　授業の流れ

2018年前期の授業は全15回あり、第２回目から第13回目の授業で教科書のChapter １から６の範囲を学習した。１回90分間の授業を、①教科書（保育英語）、②保育英語に関する授業実践の発表と評価、③個人やグループでの発表資料や保育英語の教材作成、の３つの内容に分けて学習した。

３．７　Web教材での視聴内容

2018年前期の学習範囲である教科書のChapter １～６の⑥“FUN TIMES WITH NURSERY RHYMES”に出てきた内容と、毎月行う誕生会などに必要な内容を視聴した。代表的なものを、図３に示す。

図３．視聴画面の例

教室内の授業で日本や海外の保育英語の実践例を、比較的手軽に提示できるのは、ICTが発達したおかげであり、また新しい保育英語の授業スタイルであると言える。

４．受講生の評価：意識調査結果

前期の最終授業日である第15回目の授業時（2018年７月20日）に、Web教材に関する意識調査をアンケート形式で行った。本稿では紙面の関係で、アンケート項目１の「授業中に、授業用のホームページに掲載しているYouTubeの動画を視聴することは、英語の様々なTeachingの手法を学ぶことができるので良い。」の調査結果について報告する。欠席や無回答などの欠損値を除去した54名の結果を、図４に記す。回答は、「Yes」か「No」を選択する二択方式で行った。

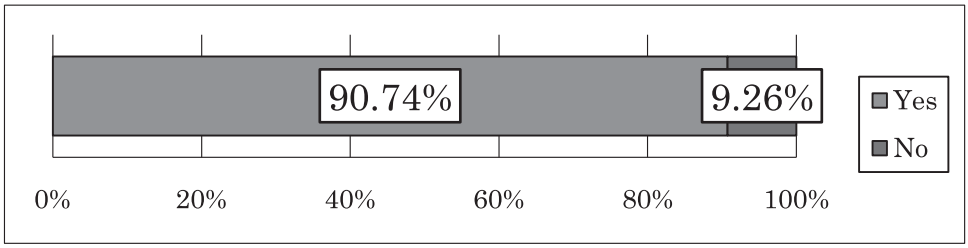


図４．「Q １. 授業中に、授業用のホームページに掲載しているYouTubeの動画を視聴することは、英語の様々なTeachingの手法を学ぶことができるので良い。」の調査結果

調査の結果、「Yes」と回答したのは90.74％（49名）、「No」は9.26％（５名）であった。９割以上の学生達が、「授業中に、授業用のホームページに掲載しているYouTubeの動画を視聴することは、英語の様々なTeachingの手法を学ぶことができるので良い。」と考えていることが明らかになった。

５．まとめと今後の課題

本研究は、授業で使用したWeb教材の作成手順の提示と、受講生である１年生の学生達の評価を調査したものである。調査結果から、９割以上の受講生達がWeb教材を活用した授業について、「良い」と評価していることから、後期も引き続きWeb教材を活用した授業を行う予定である。

今後の課題として、前期の15回目の授業時にとった意識調査の他の項目の詳細な分析と、分析結果の今後の活用が挙げられる。

本稿は、2018年８月に執筆したものである。本研究の参加者である１年生の多くは、2020年４月に、それぞれ各地の保育園や幼稚園などに着任し、保育教育現場で先生として勤務していくと考えられる。本研究の調査結果を受け、この授業用のホームページは、このまま残して、2020年４月以降も卒業生達が、必要がある都度、閲覧して自らの英語のTeaching能力を伸ばせるようにしたい。

実際の保育教育現場には、授業や教科書ではあまり学ぶ機会が無い多様な課題が存在し、職場の先生方と協力して、一つずつ解決して進んで行かなければならないと予想される。課題の一つに、経済格差が学力格差に繋がっている（中室, 2015）ことが挙げられる。中室（2015, pp. 15–16）は、文部科学省の調査によると、親の学歴や所得が高い方が、子どもの学力が高いことが示されており、その例として、東大生の親の平均年収は約1000万円であり、別の調査でも親世帯の世帯収入が950万円以上の学生の割合が57％であったと述べている。更に、日本国内の給与所得者１人あたりの平

均年収が408万円で、２人以上の勤労者世帯の平均年収が623万円であることから判断すると、東大生の親の平均年収が約1000万円であるというのは突出しており、経済格差が学力格差に繋がっているのではないかと指摘している。片岡（2012）の小学校５年生と６年生358名を対象とした英語学習調査でも、調査対象であった小学生の約３分の１が、大手の学習塾や英語教室に通学していた。文部科学省（2017, p. 2）は、2020年４月１日から外国語活動（英語）が小学校３年生から全面実施するに伴い、2018年度から移行期間に入ると公示した。小学校英語が本格的に導入されるのを受け、英語関係の民間企業による早期英語教育が、小学校入学以前の子ども達を対象として活発に行われている。いわゆる「英語教室」と称される学習機関であるが、そのような教室に通える経済力がある世帯の子ども達は良いが、経済力の乏しい世帯の子ども達は、幼児のうちから英語教育の面で置き去りになってしまい、小学校入学時点で英語の学力格差がついてしまう可能性が懸念される。

そこで今後、保育園や幼稚園などに勤務し、幼児教育に携わる教員には、小学校入学前の子ども達の英語の基礎学力を育成する能力が、より一層求められてくると考えられる。本研究の参加者である１年生の学生達には、卒業後に各保育教育現場において、本研究のWeb教材も活用しながら、子ども達に経済格差から学力格差が生じないよう、毎日５分間だけでも良いので時間をとって、アルファベット、数字、英単語、簡単な挨拶や英会話などの学習、また英語の歌や指遊び、絵本の読み聞かせなどを用いて、創意工夫しながら英語教育を実施して、活躍してもらいたい。

本稿では、「英語コミュニケーションⅠ」の授業を履修した学生達からの要望も考慮し、「３．４章」ではWeb教材の作成手順を提示した。本研究でWeb教材として活用した無料ホームページのJimdoは、本研究のように、Web教材として使っても良いし、注６のように、保護者の連絡用のホームページとして使うなど、汎用性は高い。本稿を参考に今後、Web教材の作成に興味がある教育現場の先生方や関係各位、また本校の学生達が将来、保育教育現場で自ら作成したWeb教材や保護者への連絡用ツールなどに応用して、実際に活用していただけると幸いである。

謝辞

本論文の執筆にあたり、ご協力いただきました教育現場の先生方と１年生の学生達、関係各位に心より感謝申し上げます。

注

１．大学などで、一般英語、児童関係の専門教科、また英語以外の外国語を教えている教員（全15名）、英語関係の教科書の出版社の担当者（５名）、その他（５名）に対して実施した。

２．2017年11月に、中国人の同僚のA先生（仮名）からお聞きした。

３．2017年11月25日（土）に開催された、2017年度JACET（＝大学英語教育学会）関西支部秋季大会であった。

４．出版社からいただいた教科書見本や、私物で参考になりそうな図書は、2018年６月半ば頃に本校に持参し、教材見本とした。当初１年生の201教室に置いて英語係の学生達に管理を依頼したが、同教室を英検で使用する為、教材見本を移動させる必要があった。また１年生だけでな

く、２年生も含めた全在校生が教材見本を閲覧できる方が好ましいことを考慮し、本校図書館に寄贈した。

５．教科教授法の先生が、NHK教育テレビの番組に出演した内容を、ご自宅のTVでビデオ録画した内容であったため、市販されていない。

６．大阪府の吹田市立山田中学校PTAは、2007年にドイツで開発されたJimdoを活用して、無料のホームページ（https://ymdpta.jimdo.com/）を作成し、行事予定などPTAに関する情報発信を行っている（2018年８月19日閲覧）。またJimdoの使い方に関する本は多数出版されている。私見であるが、ホームページビルダーよりJimdoの方が、操作が簡単で、短時間でホームページを作成できた。なお、基本的に人物の顔が判別できる画像は、ホームページや、Facebook、Twitter、LINE、InstagramなどのSNS（Social Networking Service）には、防犯の観点から載せない方が安全であると考えている。

７．筆者は2018年４月に、勤務先の他大学の出欠管理システム「manaba」の操作活用に関して約１時間弱のオンライン講座を自宅のパソコンから受講した。また、日本英語検定協会（＝英検）の二次試験の面接委員の評価トレーニング（各級、約70分間）も自宅のパソコンから受講可能である。

８．無料大規模公開オンライン講義を表す言葉として、アメリカではMOOCs（Massive Open Online Courses, MOOCs）という複数形が使われるが、日本ではMOOC（Massive Open Online Course）と単数形が使われている。

９．戎妙子先生と2018年３月３日にお会いした時に、Jimdoでホームページを作成する場合の事前準備や作成方法、教室での使用機材について、詳細なアドバイスをいただいた。

10．テレビによってはHDMI端子がついてないので、確認する必要がある。本研究でも当初、１年生の201教室には、HDMI端子がついていないテレビが設置されていたため、２年生の202教室に設置されているHDMI端子がついているテレビと交換する必要があった。

11．家電量販店で2018年３月30日に購入したAppleの「Lightning Digital AVアダプタ」は、5,616円（税込）で、エレコムの「HDMIケーブル」は３mで2,138 円（税込）であった。筆者は戎先生のアドバイスから３mのHDMIケーブルを購入した。しかし授業を行っている201教室内のTVと教卓の距離を考慮すると、本校の教室の場合は３mではなく５mの方が使いやすいと思われる。

参考文献

朝日新聞.（2018）.「学びたい　今こそ存分に」. 2018年８月19日（朝刊）27面. https://www.asahi.com/articles/DA3S13641917.html

戎 妙子.（2017）.「ウェブサイトビルダー Jimdoを利用した文章表現指導の実践報告」. 日本語教育支援システム研究会第７回CASTEL/J2017国際会議. 2017年８月６日. 早稲田大学早稲田キャンパス22号館206室.

片岡晴美.（2012）. 小学校５年生と６年生対象の外国語活動―文字学習と活動内容に関する検証―.『英語教育研究』. *35*, 99–116.

金山智子.（2008）．大学におけるネットコミュニティの可能性.『大學時報１月号』．76–79.
岡本敏雄.（2001）．情報コミュニケーション技術（ICT）と学習.『日本教育工学会』*25*,（２）．59–61.
柳田茂和.（2001）. 電子都庁の実現を目指して—東京都のIT 化推進の取り組み—.『情報知識学会誌』*11*,（３）．57–62.
文部科学省.（2002）.「情報教育の実践と学校の情報化—新「情報化教育に関する手引き—」
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/020706.htm
文部科学省.（2010）.「教育の情報化に関する手引き」
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/1259413.htm
文部科学省.（2017）.「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説—総則編—」p. ２.
http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/__icsFiles/afieldfile/2018/05/07/1387017_ １ _ ２.pdf
中室牧子.（2015）.『学力の経済学』．東京：ディスカヴァー・トゥエンティワン.
日本放送協会（NHK）.（2018）.「先生はAIロボット—英語の授業で試験的実施へ　文科省—」2018年８月19日放送.　https://www ３.nhk.or.jp/news/html/20180819/k10011581781000.html